

< 9 月 ゴッホ「ひまわり」 >

< テーマを決める >

ゴッホの「ひまわり」という作品を見たことがあるかな？
テレビや展示会、Tシャツ、さまざまな商品・・・いろいろと目にする機会が多い「ひまわり」には知らないこともたくさんあります。作品だけでなく、その作品の背景や作家、現在の状況など興味を深掘りしたいと思います。
展示会は、今年9月～12月に東京都美術館でゴッホ展が開催され、大ゴッホ展が今年9月に神戸で開催され、来年5月～8月に上野の森美術館で開催されます。また、新宿のSOMPO美術館にも原画が1つあります。

< 問いを考える >

「ゴッホって知ってる？」
「ひまわりっていう作品は見たことがある？」
「ひまわりっていう作品はいくつくらいあると思う？」
「今はどこにあると思う？」
ゴッホについて掘り下げる質問をしていきます。



やさしい K-ART

2025 年 9 月のテーマ《ゴッホ「ひまわり」ワーク》

ゴッホのひまわりの模写をします。細部までよく見てゴッホの筆使いを表現しましょう。

1. 見本
2. 黒画用紙
3. ひまわりパーツ
4. フレーム
5. キットパス
6. ベビーパウダー



< 環境をデザインする >

ゴッホの模写をしていきます。
今回は、3本立ちのシンプルな「ひまわり」を模写するのですが、子どもたちが達成感を得られるように、パーツ化して制作をサポートしていきます。
また、キットパスという画材が油絵のような仕上がりになるということも伝えていきます。
そして、恒例となっている魔法の粉（ベビーパウダー）で表面を固着させてベタベタしないようにするという知識も定着させていきます。フレームに入れることでより本物のような仕上がりになり、子どもたちの自己肯定感も高まります。



<探究活動を実践し、記録する>

9/9 (4 歳児)

いよいよ、ゴッホのひまわりがスタートしました。
最初は見本を見た時に、「難しそう」「できないと思う」と自信なさそうなことを言っていました。
色塗りを始めるといつものように「塗る」という作業は斜めに一生懸命手を動かして線で塗る塗り方をしてしまいがちですが、今回は種は点々、花びらは内から外へ伸びるように描くとかっこよくなるという話をすると、みんな素直に先生の言った通りに塗って作品がいい感じになってきました。
見本の絵の上に塗ったパーツを重ねると、すでに良い作品ができそうな雰囲気があります。





<探究活動を実践し、記録する>

9/9 (5歳児)

このクラスでは、先生も作品作りに参加してくれたことで、丁寧なお手本として、たまに「先生のお作品を見て見て！」と声をかけて子どもたちに良い影響を与えられたと思います。ゴッホの「ひまわり」もパキッと輪郭がしっかりとしているわけではないので、あいまいでわかりにくい部分に少し悩みながら塗っていたところもありましたが、一生懸命点々を打って、疲れたところで内から外へという塗り方を伝えていくことで、だんだんと本物に近くなっていくと、不思議と子どもたちの集中力も終盤の方が高くなってきて、最後に見本に重ねると少し満足げな顔をしていたのが印象的でした。





<探究活動を実践し、記録する>

9/30 (4 歳児)

最終日、意外と迷いなく最後のひまわりを塗り、素敵なひまわりが完成しました。ひまわりの花びらの構造としては、真ん中から外に向かって生えて伸びているから、「花びらの気持ちになって塗って」と伝え、素直に中から外に塗る子、自分の塗りたいように塗る子もありますが、本人の意思を尊重し、完成させた作品を額に入れてお披露目した時には、にやっと満足そうにととても喜んでいました。保護者の方から話しかけられ、「いつもすくわくを楽しみにしてます。ありがとうございます。私も習いたいくらい」と嬉しいお言葉をいただきました。





<探究活動を実践し、記録する>

9/30 (5歳児)

今月はちょっと時間が空いたので、どうやって塗ろうかなと悩みながら塗る子、迷いなく塗る子、それぞれお子どもたちのスタイルも見れて面白かったです。また、いつも遅れてきて参加できない子も、自ら「やってみたい」と言って途中参加。少しだけの参加でしたが、パーツができた時は楽しそうな顔をしていたのが印象的でした。額に入れて「ジャン」と本人にお披露目をする時に、はにかみながら嬉しそうにしている顔をする子が多かったです。最後に、お友達の作品も見ながら、自分の作品を眺める顔に愛着も見えて、みんな達成感と自己肯定感も上がったと思います。

